

＜確かな希望＞

ローマ5：1～8



＜ローマ教皇フランシスコ＞

2024年の受難節(レント)でのメッセージ 出エジプト記より

「荒野を通して神はわたしたちを自由へ導かれる」

◆神はご自分の民を奴隷の状態から脱して自由へ導かれた。それと同じようにキリストにある者は、死からいのちへと移された。それは、支配され言いなりになる「隷属」から自由への脱出。

荒野の道のりは厳しい！

しかし「荒野」は二度と奴隷状態に陥らないように
わたしたちの「自由」を成熟させる場。

「あなたがたは、なぜ生きている方を死人の中で捜すのですか。

ここにはおられません。よみがえられたのです。」ルカ24：5、6
復活の主にお出会いするというのは、問題の渦中にあっても
そこに主が共におられることを知ること。

キリストによって、いま私たちの立っているこの恵みに信仰によって導き入れられた私たちは、神の栄光を望んで大いに喜んでいます。そればかりではなく、患難さえも喜んでいます。それは、患難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。

【2～5節】

- ◆神の愛が注がれているとわかるのは、天の父なる神との関係が回復（和解）したから。神は愛するための条件を私たちに求めない。

艱難^{かんなん}を喜んで忍耐できるのは・・・神の愛が注がれているから！

＜ローマ人への手紙を書いたパウロ＞

- ・律法を守り通すことこそ重要。これが神に愛される唯一の方法と信じていた。
- ・ダマスコ途上で復活されたイエスさまに出会い、既に神の愛が注がれていた、救いの道を用意しておられたことを知った。